

# 大阪日々新聞

二百五十二号



元千日の地内小生入形の見世  
物場を用ふ三月一日初日  
より大入火繁昌恰も甘と  
つく蚊の如く臭と集る蠅の  
ごころ其入形大江山酒

童子の  
話を次第  
或八百物語  
遊い等を模せり  
自ら容體実ホ  
生るが如く活動する  
有声を發する  
がせり細工入の廣嶋任  
人中谷典吉の妙工の  
世に出るつどひ屋の花のをも  
浄水の龍の甲小浦島が七世の孫にり人

よりの逢がてめへ実か前代未聞の大賞  
別て二日子の日五月初卯兩日ハ五千余  
入の見物と二隻の木戸一昨日ハ百田余  
を得ると浪花の繁昌之を知り  
ウチハとままが娘のむらひんをあらわし  
はらまうり

柳櫻記



花登

